

## 企画「論語三代」趣意書

社会福祉法人 福生会  
理事長 谷口 宗弘

孔子先生が活躍されたのは二千五百年前の中国(魯国)です。当時は戦乱の時代で民の心は大いに乱れ、下剋上が当たり前であったようです。そんな世の中に、先生ご自身も「人として如何に生きるべきか」大いに悩み苦しみながら、一方で教育者として、志ある有能な若者たちが「仁ある人」に育ち、この戦乱を鎮めて世を平和に導く人材となることを願われ数多くの言葉を残されました。そのお言葉は、後に多くの弟子たちによって編纂され、論語という形で現代に伝わりますが、今日この言葉に接する私たちはそこに何を感じ、何を学び、そしてどう行動するのでしょうか。

さて、この頃の我が国は何かしら社会のあらゆる場所、様々な場面において不都合が表面化し、何処に行っても不安や不満の声が満ち満ちております。個人は無論のこと、社会全体が自信や希望を失っているようにも見えます。一体どうしたのでしょうか。そして、このような状況からわたし達が抜け出すためには何が必要なのでしょう。

孔子先生は「たとえ国に何も無くなってしまっても、信のある、志のある、或いは仁を持っている人材さえ残れば、必ず国は復活する」と断言なさいます。私なりに言い換えれば、ただ単に優しいだけでなく、志を持ってそれに向かって自分で努力する人が一人でも多く増えること、これが最終的には個人のみならず社会全体が、より良い明日に踏み出す第一歩になるのだらう、そう考える次第です。

今や論語は人生の羅針盤として、混沌とした世相であるから尚更のこと、生き方の道しるべとしての役割が益々大きくなって参りました。論語の教えをこうした時代だからこそ地域に広めたい、家庭に広めたい。そして、未来ある幼い子ども達にこそ今の内に「信」「志」「仁」の心を伝えたいという思いから、この度、各方面の皆さまのご助力を賜りながら、子ども論語塾の安岡定子様をお招きし、親子三代(保育園児・保護者・祖父母等)で声を合わせて論語を素読する会を企画しました。素読は隣どうし、声を合わせて読み上げると不思議に爽快な気分となります。心が温かくなります。勇気や希望も湧いてきます。それが親子、近所どうしなら尚更です。どうか皆さま、声掛けあって多数のご参加を賜りますようお願いしております。

## 福生会「論語塾」祝辞

三朝町長  
吉田秀光

このたび、子ども向け論語教育の第一人者である安岡定子先生をお招きし、「論語塾」が開催されますことは、誠に喜ばしく、心からお祝いを申し上げます。

論語は、中国の大思想家「孔子」とその高弟の言行を記録した書物であり、人生を豊かにする至極の言葉が多く記されています。

福生会におかれましては、一年前から、賀茂保育園児による「論語の素読」に熱心に取り組んでいただいております。子どもたちの心の成長に大きな成果をあげていただいております。

今後も引き続き、これらの取組を進めていただくことをお願いするとともに、今回の親子での論語の素読会が成功し、子どもたちの生きる力の体得につながりますことをご祈念申し上げます。お祝いの言葉といたします。